



第147号
 平成25年1月25日
 田迎校区公民館
 館長 東 旭
 編集委員
 田代 久子 吉住 久江
 重安 和弘 西 朝徳
 ☎378-5878
 編集責任 吉野元生

ふるさと創世

(住み良い町にくらしの工夫)

実践項目

- 一、あいさつ運動
- 一、明るい地域づくり
- 一、子供達に夢と誇りを

校区公民館

平成二十五年の校区新年会行われる

平成二十五年一月五日(土)田迎公民館に於いて田迎校区新年会が田迎校区自治協同協議会、町づくり委員会、校区公民館主催で行われた。当日は、校区の各種団体関係者、自治会関係者の各役員が参加した。

新年会は、六時に開始されたが、五時半に各団体の役員が集合して公民館での新年会の準備をした。午後六時近くになると、来賓をはじめ、参加者がぞくぞくと集合し、会場が一杯になり、総計九十名の参加になった。特に今回は、田迎校区単独としての新年会は最後となる。

来年度は、合同であるか別々にするか、分からないので多数の人が参加したものである。

新年会は、校区公民館主事の吉野氏の進行で始められた。



はじめ、校区公民館長の東館長の開会の挨拶があり、引きつづき、自治協議会長の西田会長が昨年度の行事に対するお礼や新設校に対する現状等についての話があった。

次に来賓を代表されて熊本市議会議員の江藤先生の挨拶があった。その中で新設校の進捗状況と市の現状についての話があった。

来賓紹介のあと、前田まちづくり委員長の乾杯の音頭で新年会は開始された。

乾杯の前に田迎西小に寄付募金の総額が地域住民の協力によって百五十万円を越えたとの話があった。田迎西小に対する住民の思いが感じられた。

新年会は名刺交換会を兼ねているので、参加者全員ごとに自治会長が一人ひとりを紹介。その後は宴会がはじめられた。

参加者は久しぶりの再会や同じ役員等と話が合い、本当に和やかな新年会となっていた。会は二時間半程続けられた。最後の締は公民館主事の吉野氏によって行われた。

今年で最後となる新年会は、九十名という参加者で無事に終了した。参加者で平成二十五年度がすばらしい年になる様にと、一本締で締められた。

無病息災を願って どんどやき行われる



平成二十五年一月十四日(月)成人の日二町内のどんどやが出仲間公園で行われた。午前十時に子ども会の役員の方がどんどやの言い伝えについての話のあと、六年生の子ども数名によって、やぐらに点火された。炎は勢いよく燃えあがり、炎高く煙の葉をまき上げて、竹の破裂の音が聞こえて、どんどやは最高潮に達した。参加した子ども達は燃え

上がるやぐらの火に無病息災を祈っていた。

二町内では、前の日に突いた餅でせんざいも用意された。参加した人に振舞われていた。縁起物であるので大勢の人がおいしく食べていた。どんどやに参加した人は二〇〇名を越えていた様であった。

また、一月十二日(土)には、三町内のどんどやが砂入公園に於いて行われた。午前十時に集合した地域の人達が、どんどやの準備をした。公園が小さくて、民家が近いので従来のどんどやの形を変えて、灰が遠くに飛ばない様に工夫してカマド式にして実施している。

子ども会はせんざいを用意し、老人会はぶた汁を用意し、老人会はぶた汁を用意し、温かく支える先生、地域保護者を表わしているとの事であった。

また、校歌の原案も出来た様である。

作詞は宮原千草氏。作曲は黒田孔太郎氏となっている。

宮原千草氏は、田迎小学校の伝統に、新しい風を吹き込んでいく田迎西小の子どもたちへの思いを同じにしたそうである。

作曲した黒田氏は、田迎地区の誇りに思ふ地域の方々、その思いを大事にしてつくられた歌詞を生かし、やさしい気持ちで誰もが平和な心になって歌えるような曲をつくったそうである。

田迎西小の校章と校歌と建設の状況

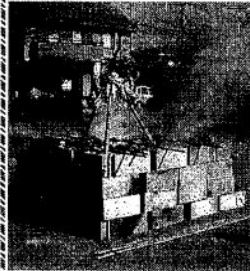


田迎小から分離する田迎西小学校の校章が出来上がった。田迎小の児童に圖案を募集し、その中から、複数の圖案を組み合わせて作られたとの事である。

校章の意味は次の通りである。真ん中の桜は中心で輝く子どもと鉛筆やペンで学びを表し、子ども達の向上心を表している。3枚の葉は、子ども達を周りに



田迎西小学校 校歌
 「風水の子ども」
 一、ふりそそぐ 太陽の光
 はるか東の 大阿蘇照らし
 西の彼方の 有明染める
 光あびて すこやかな
 田迎西 太陽の子ども
 以下、二、三番と続いている。すばらしい校章と校歌ができた。田迎西小の校舎は、全体が出来上がって、多分、日本一の校舎として誇れるすばらしい学校になる事であろう。



意して参加者に振舞っていた。点火は十一時に行われ、各家庭のかざり等が燃やされて、無病息災を祈っていた。なお、カマドの中にはカッポ酒の竹が入っていて参加した大人には御神酒として振舞われ、ぶた汁もせんざいもカッポ酒も何杯も戴いている方もいた。

二、三町内のどんどやは晴天に恵まれて最高の日となった。